

## 2023年度「スポーツ健康科学1」授業運営方法および評価方法

佐藤 紀子

### Classroom management and evaluation of “Sport and Health Science1”

Noriko Sato

#### 1. はじめに

日本大学歯学部では2023年度第1学年より新しいカリキュラムでの履修がスタートした。「スポーツ健康科学1」は第1学年前期に配置された科目である。当該科目は「歯科医師として求められる基本的な資質」コースの中の一科目であり、歯科医学を学ぶための基盤を形成する「フェーズ1」に配された実技・演習科目である。

科目の一般目標は、次の3つである。(1)生涯にわたり運動・スポーツを継続して実践できる態度を身につけるため、運動・スポーツの重要性を認識する。(2)有能感・自律性・関係性の欲求を満たす重要性を認識し、自身のウェルビーイング実現のために行動することができる。(3)多様なニーズのある人々のスポーツについて学び、共生社会の実現に寄与できる。

自身の健康、身体的・精神的・社会的に良い状態を維持していく方法を、仲間との身体活動を媒体として学び、実践していくことが当該科目の大きな目標である。また多様性を理解し、共生社会実現について寄与できる人材の育成も目標とし、授業が展開されている。

本稿では、新カリキュラムスタート、そして2019年度以来、4年ぶりの対面授業再開となっ

た2023年度「スポーツ健康科学1」授業運営方法、評価方法について報告する。

#### 2. 授業運営方法

まず、「スポーツ健康科学1」の授業がどのように運営されたかを説明する。

##### 1) 授業実施場所

本学部の体育施設（グラウンド、体育館、テニスコート）は千葉県松戸市にあり、日本大学松戸歯学部と共同で使用されている。正課授業で松戸歯科体育施設を使用するのは「スポーツ健康科学1」のみである。授業では天候によって学習項目が左右されるグラウンドやテニスコートは使用せず、体育館のみを利用してゐる。体育館のフロアは35m×26mで、バスケッ



図 松戸歯科体育施設体育館

トボールコート2面, バレーボールコート2面, バドミントンコート6面をとることができる。体育館の広さと受講生の身体活動量の確保, 安全の確保, 教育効果を考慮すると, 1学年全員(2023年度は157名)での実施は人数が多すぎ, その半分(約80名)でも, まだ適正とは言えず, 4分の1の約40名で授業を実施した。

歯科体育施設の他には歯学部3号館地下3階道場および歯学部近隣のボウリング場(2023年度は東京ドームボウリングセンターを1回利用)を使用した。道場やボウリング場の利用は, 施設の広さと受講人数との関係の他に, 受講生の松戸歯科体育施設への移動時間や交通費負担の軽減も目的としている。また, 松戸歯科体育施設体育館には, 冷房設備はあるが, 正課授業での使用は認められていない。昨今の夏の猛暑の中での授業は危険であるため, 冷房の効いたボウリング場, 地下3階道場の使用が必須となってきている。

なお, 松戸歯科体育施設における受講生の更衣については, 体育館内の部屋を男子用と女子用に2部屋使用した。

## 2) 担当教員

「スポーツ健康科学1」の担当教員は, 健康科学分野の専任教員1名と兼任講師1名の計2名である。なお, 授業運営上, 学生の安全管理の観点から一部の授業については, 2021年度ま

で健康科学分野の兼任講師を務めていた教員が授業補助をおこなった。

## 3) グループ分け

授業は第1学年学生約160名を4グループに分けて実施された。学生は, 年度当初に五十音順の学年番号によって奇数番号はAクラス, 偶数番号はBクラスに分けられる。さらに番号の早い方からそれぞれのクラスを半分に分け, 1学年はA1, A2, B1, B2の4つのクラスに分けられている。このクラスの男女の割合は, 過去に極端な偏りがあり, 体育実技授業運営に支障をきたしたことがあったが, 2023年度はどのクラスも男女の割合がほぼ半々であったため, 指定された4つのクラスを「スポーツ健康科学1」のグループとして利用した。

## 4) 時間割

表1は2023年度第1学年前期時間割である。「スポーツ健康科学1」は水曜日の5・6時限目(13:00~14:50)と7・8時限目(15:00~16:50)に配置された。Aクラス, Bクラスそれぞれ「医療統計学」授業後に2時間の空き時間が設定されている。これは, 日本大学歯学部がある神田駿河台から松戸歯科体育施設までの移動時間と食事時間を考慮したためである。

松戸歯科施設までは, 自家用車の利用を認め

表1. 2023年度 第1学年前期授業時間割

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限
	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	12:00-12:50	13:00-13:50	14:00-14:50	15:00-15:50	16:00-16:50
月曜日	Briefing/ 前週講義試験	歯科医学入門1	歯科医学入門1		自主創造の基礎	自主創造の基礎	グループ学習	グループ学習
火曜日	生物学	生物学	生物学		化学	化学	化学	グループ学習
水曜日	[A] 医療統計学	[A] 医療統計学			[A] スポーツ健康科学1	[A] スポーツ健康科学1		
			[B] 医療統計学	[B] 医療統計学			[B] スポーツ健康科学1	[B] スポーツ健康科学1
木曜日	化学	化学	化学		生物学	生物学	生物学	グループ学習
金曜日	[A] 物理学1	[A] 物理学1	[A] 物理学1		[B] 物理学1	[B] 物理学1	[B] 物理学1	Weekly Summary
	[B] 英語1	[B] 英語1	[A] グループ学習		[A] 英語1	[A] 英語1	[B] グループ学習	
土曜日	自己学習	自己学習	自己学習					

表2 「スポーツ健康科学1」授業回と学習項目一覧表

回	日付	クラスと時間		学習項目 (授業場所)	
		5, 6 限 (13:00~)	7, 8 限 (15:00~)	グループ①	グループ②
1	4月5日	A	B	1 ガイダンス (121講義室)	
2	4月12日	A	B	2 体力チェックテスト① (松戸体育施設)	2 体力チェックテスト① (地下3階道場)
3	4月19日	A	B	2 体力チェックテスト② (地下3階道場) ※1	2 体力チェックテスト② (松戸体育施設) ※1
4	4月26日	A	B	3 健康づくり運動① (地下3階道場)	5 アダプテッド・スポーツ① (松戸体育施設)
5	5月10日	A	B	3 健康づくり運動② (地下3階道場)	5 アダプテッド・スポーツ② (松戸体育施設)
6	5月17日	A	B	3 健康づくり運動③ (地下3階道場) ※2	5 アダプテッド・スポーツ③ (松戸体育施設)
7	5月24日	A	B	4 生涯スポーツ① (地下3階道場)	5 アダプテッド・スポーツ④ (121講義室)
8	5月31日	A	B	4 生涯スポーツ② (東京ドームボウリング場)	5 アダプテッド・スポーツ⑤ (松戸体育施設) ※3
9	6月7日	B	A	5 アダプテッド・スポーツ① (松戸体育施設)	3 健康づくり運動① (地下3階道場)
10	6月14日	B	A	5 アダプテッド・スポーツ② (松戸体育施設)	3 健康づくり運動② (地下3階道場) ※2
11	6月21日	B	A	5 アダプテッド・スポーツ③ (松戸体育施設)	3 健康づくり運動③ (地下3階道場)
12	6月28日	B	A	5 アダプテッド・スポーツ④ (121講義室)	4 生涯スポーツ① (地下3階道場)
13	7月5日	B	A	5 アダプテッド・スポーツ⑤ (松戸体育施設) ※3	4 生涯スポーツ② (東京ドームボウリング場)
14	7月12日	B	A	6 レクリエーションスポーツ (松戸体育施設)	
15	7月19日	B	A	7 まとめ (121講義室)	

ておらず、公共交通機関を利用することになっている。多くの学生は、東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅から松戸駅(約30分)に行き、松戸駅から京成バスで「日大歯科病院」(約20分)まで移動することとなる。中には北松戸駅まで電車を利用し、そこから徒歩(約20分)で移動する学生もいた。

第1回目から8回目までの授業は表1に示された時間割通りにおこない、「医療統計学」担当教員と相談のうえ、第9回目授業からAクラスとBクラスの時間を入れ替えた。

### 5) 授業の進め方

表2は授業回と学習項目の一覧表である。グループ①はA1クラス、B1クラスを、グループ②はA2クラス、B2クラスを示している。学習項目1:ガイダンス、6:レクリエーションスポーツ、7:まとめ、つまり第1、第14、15回目の授業は①、②グループ合同で、それ以外はグループごとに授業が実施された。①と②グループの学生では、学習項目の受講順番が違うが、どちらも全ての項目を学修した。

2グループ合同の授業については2名の教員が担当した。学習項目2:体力チェックテスト

①②(地下3階道場)および学習項目3:健康づくり運動、4:生涯スポーツを兼任講師が担当し、学習項目2:体力チェックテスト①②(松戸体育施設)と5:アダプテッド・スポーツを専任教員が担当した。つまり松戸歯科体育施設を使用する学習項目を専任教員が、道場・ボウリング場を使用する学習項目を兼任講師が担当した。

### 6) Google Classroom の利用

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため遠隔授業となった2020年度以降、前カリキュラム教科「生涯スポーツ」で利用してきた『Google Classroom』(佐藤・鮫島, 2020)を、「スポーツ健康科学1」においても用いた。『Classroom』を通じて受講生への連絡、資料の配布、課題提示、レポート課題のフィードバックをおこなった。

### 7) 松戸歯学部との連携

松戸歯科体育施設を使用する際には、松戸歯学部との連携が必要不可欠である。これまで、互いの体育実技担当の専任教員の情報共有によって、本学部の授業が運営されてきている

が、学部としての連携も重要である。正課授業中の怪我については、松戸歯学部の保健室看護師が応急処置や医療機関との連携を担当してくれている。また、「スポーツ健康科学1」の授業日には、松戸歯学部の学食を利用する学生も多い。さらには、本学部の学生のバスの利用状況について、一般の乗客から松戸歯学部学生課にクレームが入ることもあるため、学部間の連携は欠かせない。

### 3. 評価方法

次に「スポーツ健康科学1」の評価方法を説明する。

#### 1) ルーブリックの利用

「スポーツ健康科学1」は最終成績をS, A, B, Cと段階的に示した「成績評価表示」にて行われる科目である。C評価以上が得られない場合、本科目は履修未完了となる。新カリキュラムでは、成績評価表示を用いる授業科目において、全ての必修科目でC評価以上であることが進級認定要件の一つになっている。

本科目は他の受講生、仲間との身体活動を媒体として学修をおこなうため、全ての授業に出席することを求めている。なお、やむを得ず欠席した場合には、欠席届を提出し必ず補講を受講することを求めた。評価は、自身の健康管理：30%、受講態度・取り組み姿勢（行動力、意欲、向上心、協調性）：40%、レポート3課題：30%でおこなった。

本学部では、各科目のシラバスに一般目標の他に到達目標が示されている。表3は「スポー

ツ健康科学1」の到達目標である。当該科目では、自身の健康管理と受講態度・取り組み姿勢について、この到達目標の達成度合いによって成績評価をおこなった。なお、評価にはルーブリックを用いた。

ルーブリックとは、評価基準について「どこまで達しているのか」という学びの質を明らかにするために、質的違いをレベルに分けて表などに整理したもの（安藤, 2008）、いくつかの段階に分けて教育上の達成度の目安を記述して、学修者の到達度を判断する基準を示したものの（山口, 2013）である。

表4は受講生に示した「スポーツ健康科学1」のルーブリックである。第1回目のガイダンスにおいて、それぞれの項目の基準と具体的内容について説明をおこなった。

#### 2) 各項目の基準と内容

以下に各項目の基準と内容を示す。

①健康管理：自身の体調を管理し授業に臨むとともに、周囲の環境に応じた行動をとることができる。

自身の体調を管理し、休むことなく授業に参加するとともに、自身の体調に合わせた行動ができる。自身および仲間の安全について注意を払うことができる。規則正しい生活リズム、生活習慣を持ち、欠席しない、遅刻しない。

②受講態度・取り組み姿勢（行動力）：運動の仕組み、各競技のルールを学び、目的に応じた方法を理解し、行動することができる。

担当教員の説明を聞き、運動の方法やルール

表3 到達目標

①	自身の体調を管理し授業に臨むとともに、周囲の環境に応じた行動をとることができる。
②	運動の仕組み、各競技のルールを学び、目的に応じた方法を理解し、行動することができる。
③	毎回の授業内容に対する目標・目的を明確にし、課題を解決し、学びを深めることができる。
④	体力や技能に応じて、誠実に努力を重ね、全力で取り組むことができる。
⑤	肯定的なコミュニケーションをとり積極的に他者と関わることができる。
⑥	自身の態度、行動や発言、自身の心身の変化を振り返ることができる。

表4 ルーブリック

項目	基準	A	B	C	D	
健康管理 (30%)	体調を管理し授業に臨むとともに、周囲の環境に応じた行動をとることができる。	模範となる生活リズムと生活習慣を持ち、健康・安全管理をしっかりと考えて行動している。	良好な生活リズムと生活習慣を持ち、健康・安全管理を考えて行動している。	規則正しい生活をする上で健康・安全管理に関心を持ってはいるが、行動に結びついていない。	規則正しい生活をする上で健康・安全管理に関心が足りておらず、行動できていない。	
受講態度・ 取り組み姿勢 (40%)	行動力	運動の方法やルールを正確に理解し、自ら積極的に行動ができていく。	運動の方法やルールを理解し、自ら行動ができていく。	運動の方法やルールの理解が不足し、自ら行動することができない。	運動の方法やルールを理解していないため、行動することができない。	
	意欲	毎回の授業内容に対する目標・目的を明確にし、課題を解決し、学びを深めることができる。	目標・目的を明確にし、積極的に課題解決に取り組んでいる。学びを深める方法をしっかりと考え、授業に臨んでいる。	目標・目的の理解がやや足りず、課題解決に取り組めないことがある。学びを深める方法を考えるには至っていない。	目標・目的を理解できておらず、課題解決に取り組めない。学びを深める方法に関心がない。	
	向上心	体力や技能に応じて、誠実に努力を重ね、全力で課題に取り組むことができる。	仲間にも模範となるような姿勢を持ち、努力を重ね、課題に取り組んでいる。	努力し、課題に取り組んでいる。	努力する姿勢はあまり見られないが、課題には取り組んでいる。	努力する姿勢が見られず、課題に取り組もうとしない。
	協調性	肯定的なコミュニケーションをとり、積極的に他者と関わることができる。	肯定的なコミュニケーションをとりながら、他者と積極的に関わっている。優れたリーダーシップ・フォロワーシップがとれている。	コミュニケーションをとりながら、他者と関わっている。リーダーシップ・フォロワーシップをしっかりと努力している。	一部の他者とだけコミュニケーションをとっている。リーダーシップ・フォロワーシップをとることはできない。	コミュニケーションがとれていない。
レポート課題 (30%)	別途 授業内で説明するとともに「Google Classroom」	に資料を掲載する。				

の内容を正しく理解する。理解できない点は自分で判断せずに教員に質問する。説明内容を理解したうえで、今、何をすべきか考えて自分で行動できる。

③受講態度・取り組み姿勢（意欲）：毎回の授業内容に対する目標・目的を明確にし、課題を解決し、学びを深めることができる。

設定された授業の目標や目的を明確にするとともに、毎回の課題を理解したうえで課題解決に取り組み、学びを深める方法を考えることができる。

④受講態度・取り組み姿勢（向上心）：体力や技能に応じて、誠実に努力を重ね、全力で取り組むことができる。

自身の体力や運動技能に応じて、より良くなるための努力ができる。全力でチャレンジする。

⑤受講態度・取り組み姿勢（協調性）：肯定的なコミュニケーションをとり積極的に他者と関わることができる。

挨拶をする、問いかけられたら返事をする、グループでの話し合いに参加する、仲間の援助・サポート、手伝いをする、声掛けをする。他者との様々な関りの中で肯定的なコミュニケーションをとることができる。意見をまとめ

たり、目標・目的達成のための働きかけおこなう、集団をとりまとめたりすることができる（リーダーシップを発揮する）。リーダーの働きかけに応答し、サポートをおこなうことができる（フォロワーシップを発揮する）。

到達目標⑥自身の態度、行動や発言、自身の心身の変化を振り返ることができる、については、ルーブリックには含めず学習項目4：生涯スポーツへの導入②、学習項目5：アダプテッド・スポーツ⑤が終了した際に、ルーブリックを用いてセルフアセスメント、自己評価を実施させた。

また、ルーブリックを用いて仲間同士、互いの評価すべき項目について話し合うピアフィードバックも、学習項目5：アダプテッド・スポーツ⑤の授業内に試みた。学習項目5：アダプテッド・スポーツ③～⑤において、協同学修をおこなうため、約10人のグループを編成した。このグループ内で、受講生自身の振り返りを促進させることを目的として、互いにピアフィードバックを実施させた。

### 3) レポート課題

「スポーツ健康科学1」ではレポート3課題

表5 レポート課題①「体力の現状」ループリック

評価ポイント	基準	A	B	C	D
体力要素	それぞれの体力要素の内容を理解できている。	それぞれの体力要素の内容を正しく理解できている。	体力要素の内容について、ほぼ理解できている。	体力要素の内容について理解が足りない。	体力要素の内容について理解していない。
体力の分析	自身の体力の状況を理解できている。	自身の体力の現状を正しく理解し、説明できている。	自身の体力の現状について、ほぼ理解できている、説明できている。	自身の体力の現状について、理解が足りておらず、説明もできていない。	自身の体力の現状について理解していない。説明もできていない。
表現の工夫	読み手に体力の現状や改善点が伝わるような表現ができている。	読み手に体力の現状や改善点が伝わるよう、創意工夫し表現できている。	読み手に体力の現状や改善点が伝わるような表現はできているが、もう少し工夫が欲しい。	読み手に体力の現状や改善点が伝わるような表現が足りない。	読み手に体力の現状や改善点が伝わるような表現ができていない。
期限や形式	期限を守り、指示された形式通りにレポートが作成できている。	期限を守り、指示された形式通りにレポートが作成できている。	期限を守り、ほぼ指示された形式通りにレポートが作成できている。	期限は守られているが、指示された形式になっていない。	提出期限を越えての提出である。指示された形式になっていない。

表6 レポート課題②「自身の姿勢」評価ポイントと基準

評価ポイント	基準
姿勢の分析	姿勢評価の方法を正しく理解し、自身の姿勢の現状を把握できている。
不良姿勢の影響	不良姿勢の内容および身体への影響を理解できている。
姿勢維持・改善方法	よい姿勢の維持および不良姿勢改善の方法を理解できている。
表現の工夫	読み手に自身の姿勢の現状や改善点が伝わるような表現ができている。
期限や形式	期限を守り、指示された形式通りにレポートが作成できている。

表7 レポート課題③「アダプテッド・スポーツの利点」評価ポイントと基準

評価ポイント	基準
授業での経験を通した「アダプテッド・スポーツ」の理解	アダプテッド・スポーツ①～⑤の授業内容を理解し、「アダプテッド・スポーツ」の考え方を自分の言葉で説明できている。
「アダプテッド・スポーツ」の利点	授業での経験を通して「アダプテッド・スポーツ」の利点について考え、その利点を自分の言葉で説明できている。
期限や形式	期限を守り、指示された形式通りにレポートが作成できている。

を受講生に課した。

課題①体力の現状：自身の体力チェックテスト結果を全国平均と比較し、現状および改善点を説明する。学習項目2：体力チェックテスト②の後（表2の※1）にレポート作成を求めた。

課題②自身の姿勢：自身の姿勢の特徴を説明し、評価する。学習項目3：健康づくり運動③の後（表2※2）にレポート作成を求めた。

課題③アダプテッド・スポーツの利点：授業での経験を通して学んだアダプテッド・スポーツの利点を説明する。学習項目5：アダプテッド・スポーツ⑤の後（表2※3）にレポート作成を求めた。

それぞれのレポート課題のループリックは、授業内で説明するとともに『Google Classroom』に資料を掲載した。表5はレポート課題①の

ループリックである。各評価ポイントと基準、A, B, C, D, 4段階評価の具体的な説明を示した。

なお、レポートの評価については、解説コメントとともに『Classroom』を通じて、個別にフィードバックをおこなった。フィードバック後、評価や解説コメントに対する質問を受け付けた。また第15回目授業において、よく書けたレポートを模範例として紹介し、解説をおこなった。

他の2課題についても、ループリックを学生に提示した。表6と7はレポート課題②、③の評価ポイント及び基準である。どちらもレポート課題①同様にA, B, C, Dの4段階の説明を示した。

#### 4. 次年度に向けて

本稿では、「スポーツ健康科学1」の授業運営方法と評価方法について報告した。より良い授業を展開していくために、今後、一般目標・到達目標、そこに到達するための学習項目の検討、ループリックを用いた評価やセルフアセスメント、ピアフィードバックの効果の検証等をおこなっていく必要がある。また、科目として「歯科医師として求められる基本的な資質」の醸成を促進できるよう、項目、授業の実施方法、評価方法等を継続して検討していく。

より良い授業運営のためには、学部として受講環境の整備に取り組んでいく必要がある。2023年度は、4年ぶりの対面での実技再開となった。感染症拡大防止も考慮し、更衣室の整備について、2023年2月頃から松戸歯学部に対し働きかけをおこなってきた。しかしながら、前期の授業が終了するまでに改善はみられなかった。松戸歯科体育施設を利用するにあたっては、松戸歯学部との連携が必要不可欠であ

る。今後は教員だけではなく、教務課、学生課、管財課を含め本学部が松戸歯科体育施設の使用状況を把握したうえで、施設の整備や緊急時の対応等について、松戸歯学部と協力していくべきであると考えている。

#### 【参考文献】

- 安藤輝次 (2008) 一般的ループリックの必要性. 教育実践総合センター研究紀要, 17: 1-10
- 佐藤紀子・鮫島千恵子 (2020) 遠隔授業による体育実技 - 日本大学歯学部 第1学年「生涯スポーツ」の取り組み -. 日本大学歯学部紀要, 48: 9-21
- 山口陽弘 (2013) 教育評価におけるループリック作成のためのいくつかのヒントの提案 - パフォーマンス評価とポートフォリオ評価に着目して -. 群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編, 62: 157-168